

## 9. 理由表示の使用法及び生成源

### 9.1 概要

本章は“理由表示”情報要素のフォーマット、コード化及び意味と生成源フィールドの使用法について定義しています。本章ではそれらの標準における各理由表示値の使用法を規定しています。

本章はTTC標準JT-Q850の再掲です。

### 9.2 理由表示

“理由表示”情報要素は、メッセージ生成理由、手順上の誤りの診断情報及び理由の生成源を示すために用いられます。

“理由表示”情報要素は、図9.1及び表9.1及び表9.2に示すようにコード化します。

本情報要素の最大長は、32オクテットです。

“理由表示”情報要素及び診断情報は、例えば、単一呼に関連した複数の誤りを通知する場合等、1メッセージ内で複数設定可能です。

しかし、相手ユーザには1つのみを転送します。

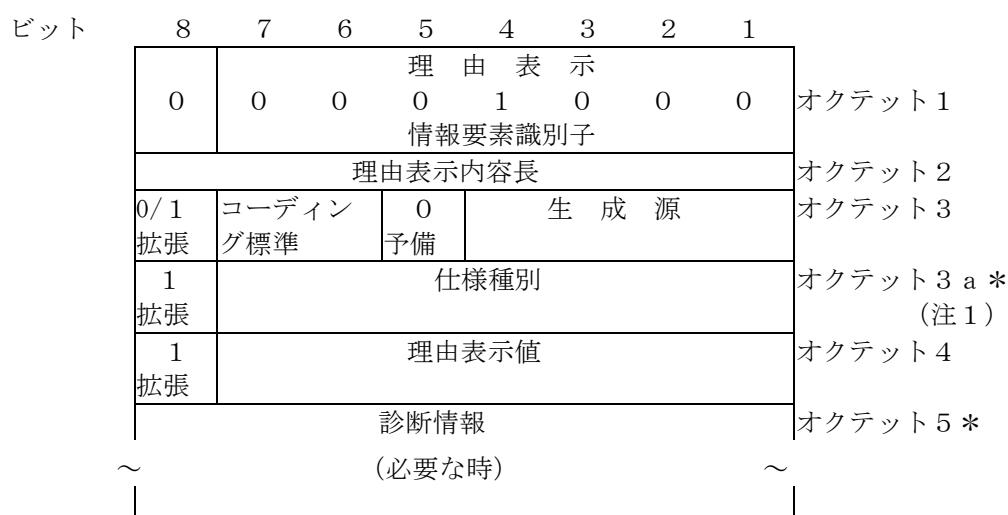


図9.1 理由表示情報要素

(注1) 仕様種別にデフォルト値が適用される場合、オクテット3aは省略されます。

具体的には、ユーザも網もデフォルト値であるTTC標準JT-Q931を仕様種別で指定する場合、オクテット3aを省略する必要があります。

表 9.1 理由表示情報要素 (1/2)

(1) コーディング標準 (オクテット 3)

ビット 7 6

0 0 ITU-T 勧告及び TTC 標準

未提供

0 1 他の国際標準のために予約済 (注)

1 0 国内標準 (注)

1 1 オクテット 3 のビット 4 ~ 1 で示す生成源特有標準 (注)

(注) 必要な理由表示が、ITU-T 勧告及び TTC 標準のコーディングで表せない場合のみ使用  
できます。

生成源特有標準で、生成源がユーザ自身の場合、オクテット 3 a 以下はユーザが自由に使用  
できます。

(2) 生成源 (オクテット 3)

ビット 4 3 2 1

0 0 0 0 ユーザ (U)

0 0 0 1 ローカルユーザ収容私設網 (自分側) (LPN)

0 0 1 0 ローカルユーザ収容公衆網 (自分側) (LN)

0 0 1 1 中継網 (TN)

0 1 0 0 リモートユーザ収容公衆網 (相手側) (RN)

0 1 0 1 リモートユーザ収容私設網 (相手側) (RPN)

0 1 1 1 国際網 (INTL)

1 0 1 0 インタワーキング先の網 (BI)

その他 予約済

(注 1) ユーザの位置により、ローカル公衆網と、リモート公衆網が同じ網の場合もあります。

(注 2) 各種ビジー／輻輳状態で用いられる生成源フィールドのコード値の例は 9.4 節で示されています。

表 9.1 理由表示情報要素 (2/2)

(3) 仕様種別 (オクテット 3 a) (注 1)

ビット 7 6 5 4 3 2 1

0 0 0 0 0 0 0      T T C 標準 J T - Q 9 3 1

未提供

0 0 0 0 0 1 1	勧告 X. 2 1 (注 2)
0 0 0 0 1 0 0	T T C 標準 J T - X 2 5
そ の 他	予約済

(注 1) オクテット 3 a が省略された場合、J T - Q 9 3 1 の仕様種別が仮定されます。

(注 2) この値は、オクテット 3 a が将来拡張され、かつオクテット 4 の理由種別が表 9. 2 の時のみ使用されます。

(4) 理由表示値 (オクテット 4)

理由表示値はクラス (ビット 7 ~ 5) と理由種別値 (ビット 4 ~ 1) の 2 つに分けられます。クラスは、理由の一般的性質を示します。

- クラス (0 0 0) : 正常イベント
- クラス (0 0 1) : 正常イベント
- クラス (0 1 0) : リソース使用不可
- クラス (0 1 1) : サービス又はオプションの利用不可
- クラス (1 0 0) : サービス又はオプションの未提供
- クラス (1 0 1) : 無効メッセージ (例: パラメータ値が範囲外)
- クラス (1 1 0) : 手順誤り (例: 解読不能メッセージ)
- クラス (1 1 1) : インタワーキング

(注) 理由表示値は、表 9. 2 に示します。なお、9. 3 節に理由種別の定義を示します。

(5) 診断情報 (オクテット 5)

診断情報は全ての理由種別に対して使用できるわけではありません (表 9. 2 参照)。診断情報の使用はオプションです。使用可能な場合、診断情報のコーディングは 4 章の対応する情報要素と同一のものととなります。

表9.2 理由表示値(1/2)

コーディング標準がTTC標準(オクテット3、ビット7、6が00)の場合

クラス	理由種別値	番号	理由種別	診断情報
765	4321			
000	××××		正常イベントクラス	
000	0001	#1	欠番	(注12)
000	0010	#2	指定中継網へのルートなし	中継網識別(注11)
000	0011	#3	相手へのルートなし	(注12)
000	0110	#6	チャンネル利用不可	—
000	0111	#7	呼が設定済のチャンネルへ着呼	—
001	××××		正常イベントクラス	
001	0000	#16	正常切断	(注12)
001	0001	#17	着ユーザビジー	(注10)
001	0010	#18	着ユーザレスポンスなし	—
001	0011	#19	着ユーザ応答なし(呼出中)	—
001	0100	#20	加入者不在	—
001	0101	#21	通信拒否	通信拒否状態 (注4)(注12)
001	0110	#22	相手加入者番号変更	新しい相手先(DSS1)／ 着番号(ISUP)(注5)
001	1010	#26	選択されなかったユーザの切断復旧	—
001	1011	#27	着側インタフェース起動不可	—
001	1100	#28	無効番号フォーマット(不完全番号)	—
001	1101	#29	ファシリティ拒否	ファシリティ識別子 (注1)
001	1110	#30	状態問合せへの応答	—
001	1111	#31	その他の正常クラス	—
010	××××		リソース使用不可クラス	
010	0010	#34	利用可回線／チャンネルなし	(注10)
010	0110	#38	網故障	—
010	1001	#41	一時的失敗	—
010	1010	#42	交換機輻輳	—
010	1011	#43	アクセス情報破棄	破棄された情報要素識別子 (注6)
010	1100	#44	要求回線／チャンネル利用不可	(注10)
010	1111	#47	その他のリソース使用不可クラス	—
011	××××		サービス利用不可クラス	
011	0001	#49	QOS利用不可	(注12)
011	0010	#50	要求ファシリティ未契約	ファシリティ識別子 (注1)
011	1001	#57	伝達能力不許可	(注3)
011	1010	#58	現在利用不可伝達能力	(注3)

表 9.2 理由表示値 (2/2)

クラス	理由種別値	番 号	理 由 種 別	= 診 断 情 報
7 6 5	4 3 2 1			
0 1 1	1 1 1 1	# 6 3	その他のサービス又はオプションの利 用不可クラス	
1 0 0	××××	サービス未提供クラス		
1 0 0	0 0 0 1	# 6 5	未提供伝達能力指定	(注 3)
1 0 0	0 0 1 0	# 6 6	未提供チャンネル種別指定	チャンネル種別 (注 7)
1 0 0	0 1 0 1	# 6 9	未提供ファシリティ要求	ファシリティ識別子 (注 1)
1 0 0	0 1 1 0	# 7 0	制限デジタル情報転送能力のみ可能	—
1 0 0	1 1 1 1	# 7 9	その他のサービス又はオプションの未 提供クラス	—
1 0 1	××××	無効メッセージクラス		
1 0 1	0 0 0 1	# 8 1	無効呼番号値使用	—
1 0 1	0 0 1 0	# 8 2	無効チャンネル番号使用	チャンネル識別子
1 0 1	0 0 1 1	# 8 3	指定された中断呼識別番号未使用	—
1 0 1	0 1 0 0	# 8 4	中断呼識別番号使用中	—
1 0 1	0 1 0 1	# 8 5	中断呼なし	—
1 0 1	0 1 1 0	# 8 6	指定中断呼切断復旧済	切断原因
1 0 1	0 1 1 1	# 8 7	ユーザはCUGのメンバでない	—
1 0 1	1 0 0 0	# 8 8	端末属性不一致	不一致パラメータ (注 2)
1 0 1	1 0 1 1	# 9 1	無効中継網選択	—
1 0 1	1 1 1 1	# 9 5	その他の無効メッセージクラス	—
1 1 0	××××	手順誤り (例: 認識されないメッセージ) クラス		
1 1 0	0 0 0 0	# 9 6	必須情報要素不足	情報要素識別子 (注 6)
1 1 0	0 0 0 1	# 9 7	メッセージ種別未定義又は未提供	メッセージ種別
1 1 0	0 0 1 0	# 9 8	呼状態とメッセージ不一致又はメッセ ージ種別未定義又は未提供	メッセージ種別
1 1 0	0 0 1 1	# 9 9	情報要素未定義又は未提供	情報要素識別子 (注 6) (注 8)
1 1 0	0 1 0 0	# 100	情報要素の内容が無効	情報要素識別子 (注 6)
1 1 0	0 1 0 1	# 101	呼状態とメッセージ不一致	メッセージ種別
1 1 0	0 1 1 0	# 102	タイマ満了による回復	タイマ番号 (注 9)
1 1 0	1 1 1 1	# 111	その他の手順誤りクラス	—
1 1 1	××××	インターワーキングクラス		
1 1 1	1 1 1 1	# 127	その他のインターワーキングクラス	—
そ の 他		予 約 済		

(注1) ファシリティ識別子のコーディングは、網に依存します。

(注2) 不一致パラメータは不一致となった情報要素識別子から構成されます。

(注3) 理由表示番号#57、#58、#65の診断情報フィールドは、図9.2と表9.3に示します。

(注4) ユーザが使用する診断情報フィールドは、理由表示情報要素の最大長の範囲内でユーザ規定に従ってコード化されます。ユーザが使用する診断情報のコーディングは(注12)で記述されているコーディングに矛盾しないようにする必要があります。

(注5) 新しい相手先(DSS1)/着番号(ISUP)は、情報要素識別子を含む着番号情報要素と同様にコード化されます。中継網情報要素も同様に含めることもできます。

(注6) 4.5節で述べている固定シフト、一次シフトの手順が適用されています。原則とし

て情報要素識別子は、受信メッセージの情報要素の順番で並べます。

この場合、診断情報内には理由種別に該当する情報要素の情報要素識別子が(複数ある場合は受信メッセージの情報要素の順番で)含まれます。シフトの手順が適用されている情報要素が該当する場合は、“固定シフト”情報要素に続けて該当する情報要素の情報要素識別子を並べることとなります。なお、コード群そのものが未定義の場合については(注8)を参照して下さい。

(注7) 次のコーディングが使用されます。

ビット8 : 拡張ビット

ビット7-5 : 予備

ビット4-1 : 表4.13のオクテット3.2のチャンネル種別による

(注8) 固定シフト情報のみが含まれ、その後、可変長の情報要素識別子が続かない場合、“固定シフト”情報要素で指定されるコード群そのものが未定義であることを示します。

(注9) “タイム番号”は、IA5キャラクタでコード化されます。例えば、T308は‘3’、‘0’、‘8’とコード化され、次のコーディング方法が各々のオクテットで使用されます。

ビット8 : 予備“0”

ビット7-1 : IA5キャラクタ

(注10) いろいろな輻輳状態で使用される理由表示値の例が、9.4節に示されています。

(注11) 診断情報フィールドは、可能ならば全ての“中継網選択”または“網特有ファシリティ”情報要素を含みます。

(注12) 以下のコーディングが使用されます。

- ビット8 : 1
- ビット7-5 : 000
- ビット4 : 以下の状態
  - 0 - 網サービス提供者
  - 1 - 網サービス利用者
- ビット3 : 以下の状態
  - 0 - 正常
  - 1 - 異常
- ビット2-1 : 以下の状態
  - 00 - 不定
  - 01 - 固定
  - 10 - 一時的

ビット	8	7	6	5	4	3	2	1	
0/1 拡張	属性番号								オクテット5
0/1 拡張	リジェクト属性								オクテット5 a
1 拡張	利用可能な属性								オクテット5 b *

図9.2 理由表示番号57, 58, 65の時の診断情報フィールドのコーディング

(注1) 診断情報が用いられる時、オクテット5と5 aは存在します。オクテット5 bはオプションです。

(注2) オクテット5-5 bは、複数のリジェクト属性を示すため、繰り返すこともできます。

表9.3 理由表示番号57, 58, 65の時の診断情報内容 (1/2)

(1) 属性番号 (オクテット5)

ビット	7	6	5	4	3	2	1	No.	
0	1	1	0	0	0	1		1	情報転送能力
0	1	1	0	0	1	0		2	情報転送モード
0	1	1	0	0	1	1		3	情報転送速度
0	1	1	0	1	0	0		4	構造
0	1	1	0	1	0	1		5	通信形態
0	1	1	0	1	1	0		6	呼設定法
0	1	1	0	1	1	1		7	対称性
0	1	1	1	0	0	0		8	情報転送速度 (着信→発信)
0	1	1	1	0	0	1		9	レイヤ識別
									上記以外 予約済

(2) リジェクト属性 (オクテット 5 a)

属性番号

① 情報転送能力

ビット 7-6 : 0 0

5-1 : 表 4.6 のオクテット 3 に従います。

表 9.3 理由表示番号 57, 58, 65 の時の診断情報内容 (2 / 2)

② 情報転送モード

ビット 7-6 : 表 4.6 のオクテット 4 に従います。

5-1 : 0 0 0 0 0

③ 情報転送速度

ビット 7-6 : 0 0

5-1 : 表 4.6 のオクテット 4 に従います。

④ 構造

ビット 7-5 : 表 4.6 のオクテット 4 a に従います。

4-1 : 0 0 0 0

⑤ 通信形態

ビット 7-5 : 0 0 0

4-3 : 表 4.6 のオクテット 4 a に従います。

2-1 : 0 0

⑥ 呼設定法

ビット 7-3 : 0 0 0 0 0

2-1 : 表 4.6 のオクテット 4 a に従います。

⑦ 対称性

ビット 7-6 : 表 4.6 のオクテット 4 b に従います。

5-1 : 0 0 0 0 0

⑧ 情報転送速度 (着信→発信)

ビット 7-6 : 0 0

5-1 : 表 4.6 のオクテット 4 b に従います。



⑨ レイヤ識別

ビット 7-6

0 1 (レイヤ1) ビット5-1は表4.6のオクテット5に従います。

1 0 (レイヤ2) ビット5-1は表4.6のオクテット6に従います。

1 1 (レイヤ3) ビット5-1は表4.6のオクテット7に従います。

(3) 利用可能な属性 (オクテット5 b)

オクテット5 aと同じコーディング

9.3 理由表示定義

9.3.1 正常クラス

9.3.1.1 理由#1 欠番

この理由表示は、番号はフォーマット上有効であったが、現在欠番のため、発信ユーザが要求した相手に着信できないことを示します。

9.3.1.2 理由#2 指定中継網へのルートなし

この理由表示は、この理由表示の送信元の装置が、認識不可能な特殊な中継網を通して呼をルーチングする要求を受けたことを示します。この理由表示の送信元の装置は、その中継網が存在していないか、あるいは、それが存在したとしても、この理由表示の送信先の装置に対してサービスをしていない特殊な中継網であるため、その中継網を認識しません。

9.3.1.3 理由#3 相手へのルートなし

この理由表示は、呼をルーチングされた網が、着信の要求を受けないため呼を着信ユーザへ届けることができないことを示します。

9.3.1.4 理由#6 チャンネル利用不可

この理由表示は、チャンネル選択の結果として選択されたチャンネルが送信端末に対して利用不可であることを示します。

9.3.1.5 理由#7 呼が設定済のチャンネルへ着呼

この理由表示は、ユーザに着呼があり、その着呼が同様の呼（例えば、パケットモードのX.25バーチャルコール）として、ユーザが既に設定しているチャンネルに接続されることを示します。

9.3.1.6 理由#16 正常切断

この理由表示は、呼に関係するユーザのうちの1人が、呼の切断復旧を要求したことにより、呼が切断されることを示します。正常状態では、この理由表示の生成源は網ではありません。

9.3.1.7 理由#17 着ユーザビジー

この理由表示は、着信ユーザが、もう一つの別の呼を受け付けられないことを示します。この場合、ユーザ装置では、着信呼に対して通信の整合性がとれている必要があります。

#### 9.3.1.8 理由#18 着ユーザレスポンスなし

この理由表示は、相手ユーザが呼設定のメッセージに対して規定された割り当て時間（本仕様で定義されたタイマT303か、もしくはT310の満了）内に「呼出中」か「応答」かを示すメッセージを返送しない時に使用します。

#### 9.3.1.9 理由#19 着ユーザ応答なし（呼出中）

この理由表示は、呼出の通知はあったが、その後規定された時間内に応答の通知がこなかった場合に使用します。

(注) この理由表示は、JT-Q931手順により必然的に生じるものではなく、網内のタイマにより生じることもあります。

#### 9.3.1.10 理由#20 加入者不在

この理由表示は、移動局が（無線バスを通して信号手順によって）ログオフされているか、または無線交信が着移動局と行えない（例えば、故障、圏外又は、電源断）ことを示します。

#### 9.3.1.11 理由#21 通信拒否

この理由表示は、この理由表示を送信した装置がビジーでも不整合でもなく、呼を受け付け可能であるにもかかわらず、呼を受け付けないことを示すのに用います。

この理由表示は、付加サービスの抑止条件により呼が切断されることを示すために網によって生成されることがあります。診断情報フィールドは付加サービスと拒否の理由について追加情報を含んでもかまいません。

#### 9.3.1.12 理由#22 相手加入者番号変更

この理由表示は、発信ユーザによって示された着信番号がもはや割り当てられていない時、発信ユーザに通知されるものです。

この時、新しい着信番号が診断情報フィールドに含まれます。

#### 9.3.1.13 理由#26 選択されなかったユーザの切断復旧

この理由表示は、ユーザが着信呼を得られなかったことを示します。

#### 9.3.1.14 理由#27 着側インタフェース起動不可

この理由表示は、着信側インタフェースが機能的に正常でなかったため、発信ユーザが要求した相手ユーザへの着信が出来なかったことを示します。この「機能的に正常でない」ということは、信号メッセージが相手ユーザに届かないことを意味しています。例えば、相手ユーザインタフェースの物理レイヤもしくはデータリンクレイヤの故障とか、ユーザ装置がオフラインの場合等です。

#### 9.3.1.15 理由#28 無効番号フォーマット（不完全番号）

この理由表示は、着信番号が無効なフォーマットか、もしくは不完全なために、相手ユーザへの着信ができないことを示します。

#### 9.3.1.16 理由#29 ファシリティ拒否

この理由表示は、ユーザによって要求されたファシリティが、網で提供できない場合に返します。

#### 9.3.1.17 理由#30 状態問合せへの応答

この理由表示は、「状態表示」メッセージを生成した理由が、これを生成する以前に「状態問合せ」メッセージを受信したことによる場合に、この「状態表示」メッセージの中に含まれます。

#### 9.3.1.18 理由#31 その他の正常クラス

この理由表示は、正常クラスの他の理由で表せない場合に正常状況を報告するためにのみ使用します。

### 9.3.2 リソース使用不可クラス

#### 9.3.2.1 理由#34 利用可回線／チャネルなし

この理由表示は、呼を取り扱うための利用可能な適当な回線／チャネルが、現在ないことを示します。

#### 9.3.2.2 理由#38 網故障

この理由表示は、網が機能的に正常でなく、その状態が比較的長時間続きそうであることを表示します。例えば、すぐに再発呼しても受付られそうもない場合です。

#### 9.3.2.3 理由#41 一時的失敗

この理由表示は、網が機能的に正常でなく、その状態が長時間は継続しそうもないことを示します。例えば、ユーザがほぼ即時に再発呼が望める場合です。

#### 9.3.2.4 理由#42 交換機輻輳

この理由表示は、この理由を発生した交換装置が高トラヒックで輻輳していることを示すのに用います。

#### 9.3.2.5 理由#43 アクセス情報破棄

この理由表示は、網が要求されたアクセス情報（ユーザ・ユーザ情報、低位レイヤ整合性、高位レイヤ整合性もしくは詳細情報の中に示されるサブアドレス等）を相手ユーザに届けられなかったことを示します。

破棄されたアクセス情報の特殊タイプの場合は、診断情報の中に含まれる場合があります。

#### 9.3.2.6 理由#44 要求回線／チャネル利用不可

この理由表示は、要求端末により通知された回線またはチャネルが、相手側のインタフェースで提供できない場合に返します。

#### 9.3.2.7 理由#47 その他のリソース使用不可クラス

この理由表示は、リソース使用不可クラスの中の他の理由を適用できない場合にのみ、リソース使用不可イベントとして報告するために使用します。

### 9.3.3 サービス利用不可クラス

#### 9.3.3.1 理由#49 サービス品質（QOS）利用不可

この理由表示は、要求されたQOS（勧告X.213で定義されている）が提供されないことを報告するために使用します（例えば、スループット又は伝達遅延が提供されない場合）。

#### 9.3.3.2 理由#50 要求ファシリティ未契約

この理由表示は、ユーザがファシリティを提供する網に対して必要な管理上の手続きを終えていないため、要求された付加サービスが網によって提供されないことを示します。

#### 9.3.3.3 理由#57 伝達能力不許可

この理由表示は、理由表示を生成した装置で実現している伝達能力であるが、ユーザに許可していない伝達能力をユーザが要求したことを示します。

#### 9.3.3.4 理由#58 現在利用不可伝達能力

この理由表示は、理由表示を生成した装置で実現している伝達能力であるが、現在利用不可である伝達能力をユーザが要求したことを示します。

#### 9.3.3.5 理由#63 その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス

この理由表示は、サービス利用不可クラスの他の理由表示が適用できない場合にのみ、サービス利用不可イベントを報告するのに使用します。

### 9.3.4 サービス未提供クラス

#### 9.3.4.1 理由#65 未提供伝達能力指定

この理由表示は、理由表示を送信した装置が要求された伝達能力をサポートしていないことを示します。

#### 9.3.4.2 理由#66 未提供チャネル種別指定

この理由表示は、理由表示を送信した装置が要求されたチャネル種別をサポートしていないことを示します。

#### 9.3.4.3 理由#69 未提供ファシリティ要求

この理由表示は、この理由表示を送信した装置が要求された付加サービスを提供しないことを示します。

#### 9.3.4.4 理由#70 制限デジタル情報伝達能力のみ可能

この理由表示は、ある装置が非制限デジタル情報伝達能力を要求した場合、この理由表示を送信する装置が要求された伝達能力のうち制限デジタル情報伝達能力のみをサポートしていることを示します。

#### 9.3.4.5 理由#79 その他のサービスまたはオプションの未提供クラス

この理由表示は、サービス未提供クラスの他の理由が適用できない場合にのみ、サービス未提供を報告するのに使用します。

#### 9.3.5 無効メッセージクラス

##### 9.3.5.1 理由#81 無効呼番号値使用

この理由表示は、理由表示を送信した装置がユーザ・網インタフェース間で現在使用しているのと異なる呼番号のメッセージを受信したことを示します。

##### 9.3.5.2 理由#82 無効チャネル番号使用

この理由表示は、理由表示を送信した装置が活性化していないチャネル番号の使用要求を受信したことを示します。例えば、ユーザが1から12までのチャネルを契約しているにもかかわらず、ユーザ装置または網がチャネル番号13から23の使用を試みた場合等です。

##### 9.3.5.3 理由#83 指定された中断呼識別番号未使用

この理由表示は、中断された呼に用いられていた呼識別番号とは異なった呼識別番号を持つ呼の再開が試されたことを示します。

##### 9.3.5.4 理由#84 中断呼識別番号使用中

この理由表示は、網が呼の中断要求を受信したが、この中断要求は呼の再開が行われるかもしれないインタフェース領域内の中断呼識別としてすでに使用中である呼識別（なにもしない場合を含む）を含んでいたことを示します。

##### 9.3.5.5 理由#85 中断呼なし

この理由表示は、網が呼の再開要求を受信したことを示します。しかし、呼の再開要求の含んでいる呼識別が、呼の再開が行われるかもしれないインタフェース領域内の中断された呼には現在使用されていないことを示します。

##### 9.3.5.6 理由#86 指定中断呼切断復旧済

この理由表示は、網が再開要求を受信したが、この再開要求は、一度中断呼として通知された呼識別を含んでおり、その中断呼が（リモートユーザの切断復旧またはタイムアウトにより）すでに切断復旧されていることを示します。

##### 9.3.5.7 理由#87 ユーザはCUGのメンバでない

付加サービス仕様参照

#### 9.3.5.8 理由#88 端末属性不一致

この理由表示は、理由表示を送信した装置が適合しえない低位レイヤ整合性、高位レイヤ整合性、あるいは他の整合性属性（例：データ速度）をもつ呼設定の要求を受信したことを示します。

#### 9.3.5.9 理由#91 無効中継網選択

この理由表示は、中継網識別を受信したが、それが付録3で定義されているように、正しくないフォーマットであることを示します。

#### 9.3.5.10 理由#95 その他の無効メッセージクラス

この理由表示は、無効メッセージクラスの他の理由が適用できない場合にのみ、無効メッセージクラスのイベントを報告するために用います。

### 9.3.6 手順誤り（例：認識されないメッセージ）クラス

#### 9.3.6.1 理由#96 必須情報要素不足

この理由表示は、理由表示を送信した装置がメッセージを受信時に、メッセージ内に存在しなければならない情報要素（必須情報要素）が不足していたことを示します。

#### 9.3.6.2 理由#97 メッセージ種別未定義または未提供

この理由表示は、理由表示を送信した装置が、その装置において未定義のメッセージ、または定義されているが未提供であるような認識できないメッセージ種別を持つメッセージを受信したことを示します。

#### 9.3.6.3 理由#98 呼状態とメッセージ不一致又はメッセージ種別未定義又は未提供

この理由表示は、この理由表示を送信した装置が、処理において特定な呼状態の間に受信したメッセージが許可しうるメッセージでないか、整合していない呼状態を示す「状態表示」を受信したことを示します。

#### 9.3.6.4 理由#99 情報要素未定義又は未提供

この理由表示は、理由表示を送信した装置の情報要素識別子が未定義、または定義されていても未提供である情報要素を含んだメッセージを受信した場合に用います。なお、その情報要素はこの理由を送出した装置が、メッセージの処理を行うために必要なものでない場合に限りです。

：(注) メッセージの処理を行うために必要な情報要素の場合は、理由#96が使用されます。：

#### 9.3.6.5 理由#100 情報要素内容無効

この理由表示は、理由表示を送信した装置が提供している情報要素であるが、情報要素の1つまたは複数のフィールドが提供していないコードである情報要素を受信したことを示します。

#### 9.3.6.6 理由#101 呼状態とメッセージ不一致

この理由表示は、受信したメッセージが呼状態と不一致の場合に用います。

#### 9.3.6.7 理由#102 タイマ満了による回復

この理由表示は、本レイヤ3仕様のエラー処理手順に従い、タイマが満了したことにより手順が開始されたことを示します。

#### 9.3.6.8 理由#111 その他の手順誤りクラス

この理由表示は、手順誤りクラスの他の理由が適用できない場合にのみ手順誤りイベントを報告するのに用います。

#### 9.3.7 インタワーキングクラス

##### 9.3.7.1 理由#127 その他のインタワーキングクラス

この理由表示は、動作するための理由表示が存在しないような網でのインタワークが発生したことを示します。したがって、送信すべきメッセージのための正確な理由表示は確認できません。

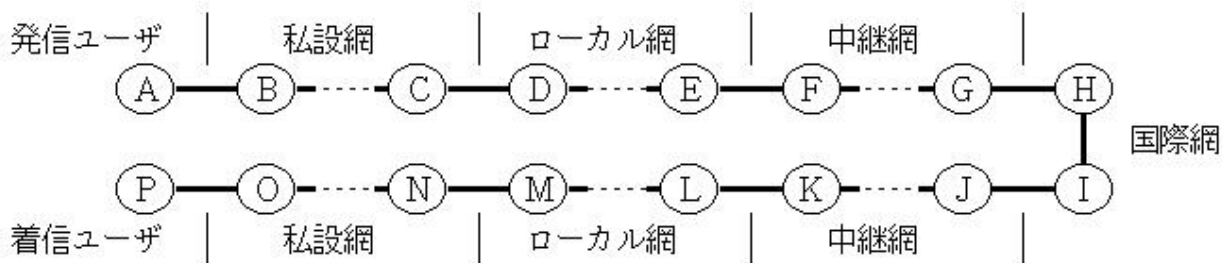
#### 9.4 ビジー状態の理由表示値及び生成源の例

本節では、ビジー状態に関する、理由表示情報要素で転送される理由表示値と生成源についての例を示します。

図9.3では、ビジー状態が発生し、そのための、ある理由を発生すべきノードを明確化した参照構成を示しています。また、表9.4では以下の項目を示しています。

- a ビジー状態が発生した場所において生じる理由表示値と生成源
- b ビジー状態が発生したそれぞれの場所（B～P）について、ユーザ（Aで示した場所）へ転送される理由表示値と生成源

表で示しているように、理由表示値が網の境界を横切る際に、理由表示値は変わりませんが、生成源表示は、受信側交換機で変わることがあります。



(注) インタフェースA-B, C-D, M-N, O-Pは本仕様を用いると仮定

図9.3 ビジー状態に関する理由表示値と生成源の例

表9.4 ビジー状態が生じる場所と理由表示値



ビジー状態の発生源		発生する理由表示と発生場所		ユーザ A で受信される理由表示	
B	入回線	# 34 又は # 44	ローカルユーザが 直接接続する私設 網	同左	同左
B	出回線	# 34			
C	出回線	# 34			
D	入回線	# 34 又は # 44	ローカルユーザが 直接接続する公衆 網		
D	出回線	# 34			
E	出回線	# 34			
F	出回線	# 34	中継網		
G	出回線	# 34	中継網		
H	出回線	# 34	国際網		
I	出回線	# 34	国際網		
J	出回線	# 34	中継網		
K	出回線	# 34	中継網		
L	出回線	# 34	ローカルユーザが 直接接続する公衆 網	# 34	リモートユーザが 直接接続する公衆 網
M	出回線	# 17		# 17	
N	入回線	# 34 又は # 44	ローカルユーザが 直接接続する私設 網	# 34 又は # 44	リモートユーザが 直接接続する私設 網
N	出回線	# 34		# 34	
O	出回線	# 17		# 17	
P	入回線	# 34 又は # 44	ユーザ	# 34 又は # 44	ユーザ
P	呼制御	# 17	ユーザ	# 17	ユーザ